りびんぐらいぶず　平成十三年四月一日発行

清浄･歓喜･智慧･･･お恥ずかしいこの私･･･

もしもし　そこのおばあさん
かばんは　車道の反対に
しっかり持っていないとね
バイクの犯人盗って行く

「もしもし亀よ亀さんよ」のあのほほえましい童謡の替え歌は、ひったくり予防･注意喚起の歌であります。

被害者は多くお年をめした女性であると言われます。

一方、加害者は、多く中途退学の高校生だそうですが、中には家族ぐるみで犯行に及ぶ者がいるといいます。

自分の今の欲望が満たされさえすれば、人の困惑は知ったことではないとする恐ろしくすさんだ今日の風潮、

これは、幼い頃から「ここに、自由･平等･天賦の人権がある。あなたは生まれながらに尊とばれるべき個人ですよ」と甘やかされ続けてきたことに起因すると言われています。

そして、その根幹の一端は戦後五十年間働き続けて来た教育基本法にあると言うことができるのではないでしょうか。

「伝統文化を尊重し、宗教的情操を養おう」との日本側原案をさしおいて、GHQに主導された教育基本法は、爾来、日本古来の文化を破壊し続けてきました。

“天賦の人権”には、もともと「造物主の下に」という前提があったが故に日本はキリスト教国でないが故にこの言葉は削除することは妥当としても、その持つ深い宗教的意味はついに顧みられることがなく、日本の伝統文化に則した配慮もなされませんでした。

自らを顧みる道を示さず、平面的に個人の尊厳のみを説き続けることの何と危ういことでしょう。

その結果、戦後の文化、教育、生き様の中で「私は凡夫である」との伝統的理解が決定的に欠落してしまいました。

何をしようとも顧みることのない今日のすさんだ風情はこのことに起因すると言わねばなりません。

このままでは古来の美しい日本文化が損なわれ、日本という国家そのものが崩壊してしまいます。

まことにうすら寒く恐ろしいことであります。

では、私達はどうすべきなのでありましょうか。

私達には「南無阿弥陀仏」のみ教えが賜ってあります。

そのみ教えの深いお心を私達一人一人が確かにわが身に頂戴することではなかったでしょうか。

既に繰り返し申しあげた通り、南無阿弥陀仏のお心は、「あなたの命の根本問題はこの阿弥陀が解決した、それ故、この阿弥陀をタノメ、阿弥陀にマカセヨ」とのオオセでございました。

この阿弥陀仏のオオセは、寄せては返す海の波のように、ひとときの休みもなく私達の胸底に届いています。

それなのに、その響きを感じ取ることができないとしたら、それは、顧みて、「わが身が凡夫である」との理解が欠落しているからであると申さねばなりません。

「凡夫」というのは、いかりはらだちそねみねたみ多く暇なくして臨終の一念に至るまで留まらず消えず絶えずとお聖教に示されてあります。

そのままでは、地獄行き間違いのない凡夫、それは他でもないこの私でありました。

阿弥陀如来は、この凡夫のありのままの姿をみそなわして、何とかしてこれを救い取ろうとしてご本願をお建てになったのであります。

そのご本願が叶って真実の世界から届けられたものこそは、南無阿弥陀仏のお名告（なの）りでありました。

そのお名告りの働きを光にお喩え遊ばした親鸞聖人は特に、清浄･歓喜･智慧の三つの光の働きが大切であるとお示し下さったのでありました。

それというのは、この三つの光によって、三毒の煩悩が転じられて阿弥陀如来のお救いに与ることができるからでありました。

まことに凡夫の理解こそは、私たちが阿弥陀仏の絶対のお救いに与る秘密の鍵であったことでありました。

それ故、日々の生活において、むさぼりの心が起ったら「このむさぼりのお恥ずかしい私をなあ、摂（おさ）め取って迎え取ってお浄土へつれて帰って下さる親様であったことよ」と噛みしめつつ声に出して「南無阿弥陀仏」とお称えしたいものであります。。

また、腹立ちの心が起ったら、「この腹立ちのお恥ずかしい私をなあ、摂めとって迎えとってお浄土へつれて帰って下さる親様であったことよ」と喜び喜び「南無阿弥陀仏」とお称えしたいものであります。

更にはまた、グチの心が起ったら「このグチのお恥ずかしい私をなあ、摂めとって迎えとってお浄土へつれて帰って下さる親様であったことよ」と顧みて「南無阿弥陀仏」とお称えしたいものでありました。合掌

（後書き）念仏の声を世界へ子や孫に

お米を丹精込めて育てれば稲藁は自然に手に入る「稲藁の喩え」の様に、わが身をお恥ずかしい凡夫と戴く宗教的情操の涵養こそは、期せずして社会道徳を整えるもとになるのではなかったでしょうか。合掌

◆正覚寺仏教壮年会例会　毎月第一日曜午後八時より
◆正覚寺仏教婦人会例会　毎月十六日午後七時より
著作編集兼発行元　りびんぐらいぶず編集室(浄土真宗本願寺派　正覚寺内)
〒520-0501 大津市北小松四五二番地 ☎&Fax077-596-0166　住職　堅田 玄宥
http://syohgakuji.web.fc2.com/ E-Mail:mhkatata@pluto.dti.ne.jp